大原龍一先生（明星大学、青山学院大学）からご所感と「友の肖像画」の学習指導案例をいただきました。許可を得てここに掲載させていただきましたので、ご精読ください。

2018.12 後藤忠

雑　感

「特別の教科　道徳」が始まって半年！

小学校は今年４月から、どの学校のどの教室でも「教科書」が使われ、毎週（？）道徳科の授業が行われています。学校によっては「通知表」に道徳科の評価を記述したところもあります。

新しく始まった「特別の教科 道徳」（道徳科）ですが、はたしてその実施の状況はいかに？

１　この４月から変わったこと

この４月からの各学校の様子を見て感じることですが、まず道徳の授業についての研修会を実施する学校が増えたことが挙げられます。校内研究に「道徳科」を取り上げ、年間を通して研究する学校、さらには２年間の研究奨励等を受けて研究する学校、そこまではしないが校内研修の一環として道徳科の研修を実施する学校が以前よりも多く見られるようになりました。そして、どの学校も道徳科に熱心に取り組んでおられるというのが私の第一の印象です。これも、教科化されたことによる効果だと思います。

一方、気になることとして、何も手を打たない学校が結構あり、「どうなんだろうか？」と余計なお世話ながら心配しています。

都内全ての小・中学校は長年「道徳授業地区公開講座」を実施し、年に１回保護者や地域に道徳の授業公開を行っています。そもそもこの事業が始められたきっかけは、道徳授業が各学校できちんと行われていないという状況があったからです。また、家庭や地域も道徳授業にそれほど関心はなかったので、少しでも関心をもってもらおうという東京都の意図があったものと思います。この事業が始まって二十年が経ちますが、その間に学校や家庭、地域の意識はかなり変化してきました。今や、ほとんどの小、中学校が道徳授業の公開に何の躊躇や反対もなく実施しています。

何といっても、この度の教科化は道徳授業の実施に大きな影響を与えています。

しかし、問題は中身です。依然として「これが道徳科か？」という授業が見受けられます。まるで国語科のような教材の読み取り中心の授業や特別活動（学級活動）にみられる適応指導が中心の授業、あるべき行為・行動を身に付けることに重点が置かれた生徒指導的な授業などです。

さらには、一見道徳科授業風に見えるのですが、学習を変にこねくり回して子供が混乱している授業も見られます。このような授業は、道徳の研究を一生懸命やっている学校で時々見られます。特別の教科になったので何か特別なことをしなければならないと思っているのでしょうか。

２　今こそ「基本に立ち返った道徳科授業」を！

「『考え、議論する道徳』は、今まで熱心に道徳をやってこなかった学校が取り組むべき課題で、今まで道徳授業をしっかりやってきた学校は今まで通りでよい」と聞いたことがあります。

教科化の話題が沸騰した数年前は「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などが盛んに言われましたが、最近はそれほど声高に聞かれなくなりました。一方、「議論！議論！」の声はまだまだ聞きます。しかし、それも今まで通り行ってきた「話合い」のことと考えれば特段問題

にすることでもありません。今までやってきた話合い活動をより充実することで十分事は足ります。
　そもそも、道徳を教科化した第一義は、「道徳の授業を毎週きちんと行いましょう！」にあったと私は考えています。それだけ実施されていなかったのが実態だったからです。「特別の教科にして学校現場に強くお願いしよう、そうしないといつまで経ってもやってもらえない」というのが残念ながら、本当のところではないでしょうか。つまり国の本音は、教科化することでことさら目新しい指導方法を普及させようとは考えていなかったと思います。
　ですからこそ、道徳の授業（道徳科の指導）の目標に基づいて、道徳科の特質にかなった授業をきちんと実施してほしいのです。
　そんな意味で、道徳科指導の特質にかなった基本的な学習指導の在り方を具体的に理解・把握していただきたいと思い、「友の肖像画」を教材に「一般的な道徳科学習指導案例」を紹介させていただきます。（これは東京都一水会・一水教育研究所に大原が投稿したものに加筆修正を加えたものです。）
　各学校で活用していただくことを願っています。

大原龍一の道徳科学習指導案例（「友の肖像画」の教材で）

第〇学年　道徳科学習指導案

日時、学校名、学年・組、指導者㊞　等

1　主題名

● 本時の授業テーマ。この時間に学習することを端的な言葉でスパッと言い表したもの。子供にも分かる、理解できる、考えることのできる「言葉」で表現する。
● 時に、「導入」や「展開の後段」での発問にもなり得るもの。

「信じ合う友」　　B　友情、信頼

★ 主題名の後ろに、内容項目の柱（A～D）と「内容項目を端的に表した言葉」を記しておく。

2　ねらいと教材

（1）ねらい

● 内容項目に記載されている学年毎のねらいを記載する。

友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。

（2）教　材

● いわゆる教材名。出典の記載を忘れない。

「友の肖像画」(昭和 55 年　文部省資料)

3　主題設定の理由

● （1）～（3）の順は問わない。学習指導要領解説や教科書の教師用指導書などを参考にし、自分でよく考えて記す。それを、教師の**「指導観を明確にする」**と言う。人の借り物ではいけない。

（1）ねらいとする内容項目について　　〈ねらいとする道徳的価値について〉とも言う。

● 道徳の内容項目（ねらいとする道徳的価値）をこのように捉え、このように考え、このように指導していく、という授業者の<u>見識</u>をしっかり述べる。その際、各学年（低・中・高別）の内容

をよく吟味する。いわゆる、授業者自身が内容項目を「哲学」する処である。

（※見識：自分なりのとらえ、考え）

（２）教材について

● なぜこの教材を選んだのか、どんな意図でどんな提示をするのか、どこを中心として考えさせるのか、また、それをどんな方法で考えさせるのか等を記述する。

（３）児童について

● 一般的な児童の実態ではなく、ねらいとする内容項目に即した実態を記す。日頃の観察、日記や作文、アンケート調査等各種情報を参考とする。このようにしたいという教師の思いや願いを記す。

(1)ねらいとする内容項目（道徳的価値）について

友と良好な人間関係を結び、充実した生活を営む上で大切なことのひとつは、友を信頼することである。友達同士が互いに助け合い、信じ合うことは、友人関係をさらによりよいものに発展させる基盤となると考える。そのような関係を築くには、友達の立場に立ち、友達を・・・・（略）

(2)児童の実態について

本学級の児童は、友達を大切に思っている児童が多い。また、高学年になり仲間意識を強くもつようになってきた児童が多い。５月の運動会では、友達と協力してソーラン節に取り組んだ。休み時間には、教室で曲を流し、・・・・（略）

(3)教材について

（略）・・・・・「友の肖像画」の前に立ち、正一に不信感をもった自分を責める和也の気持ちを共感的に理解させ、帰りの電車の中で目をつぶりながら正一への思いを膨らませる和也について深く考えることを通して、友情の大切さと素晴らしさを感じとらせたい。

４　学習指導過程

（１）本時のねらい

● この教材を使って学習する（この時間ならではの）ねらいを設定する。（その意味で「２　ねらいと教材」のねらいとは異なる）。本時だけのねらいなので、以下の３点に触れて立てる。

・**教材**に関して（教材の登場人物等の心の状況や変化等を自分事として受け止める学習のために）

・**内容項目**に即した学習面から（内容項目の一部または全部を引用する場合が多い）。

・**道徳性の諸様相**（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）で文末を締める。

正一の友情の深さを知った和也の気持ちを考える（教材）学習を通して、自己を見つめ、友達は互いに信頼し、友情を深め合っていこうとする（内容項目）心情を養う（道徳性の諸様相）。

（２）学習指導過程　　※いわゆる展開の概要である。決まった形はないが一般的な例を示す。

学習活動	○教師の発問や働きかけ　・予想される児童の反応	□指導上の留意点
導入部分 １　学習課題をつかみ、登場人物について知る。	●導入の役割　①ねらいとする内容項目への導入 ②教材への導入 ③上記①②をミックスした導入 ④雰囲気を高める導入 ○今日は、「親友」について一緒に考えていきましょう。 ○教材の登場人物を紹介する。	□左記①～④についての留意点を記入 □導入に発問がある場合は、その発問の意図を述べる。 ・ねらいを明確にする。 ・和也に焦点化した教材への導入を図る。

展開の前段部分 （主たる教材に基づいて、ねらいとする「内容項目」について考える。）	●教材提示 ・「道徳授業の成否は教材提示で決まる」ほど**重要**。 ・教材提示により児童を登場人物に**自我関与**させる。	□教材提示の方法を記述。 **・教材提示・ＢＧＭの活用　・紙芝居　・Ｐ・Ｐ ・ＴＴによる劇化　　等**
	●「発問」について ①　（「教材分析」が前提となるが）本時のねらいを達成するのに一番ふさわしい場面を選び、**「中心発問」と「予想される児童の反応」**を記載する。 ②　中心発問を生かすための「基本発問」と「予想される児童の反応」を記載する（２～３発問）。中心発問の後に基本発問が来る場合もある。 ③　「予想される児童の反応」はただランダムに記するのではなく、児童の思考の順序性等に従い整理して記述したい。	□何を、どのように**考えさせる**のか、その中身を明確に。 □「気持ち」を聞くなら「具体的にどんな気持ち」に共感させたり、考えさせたりするのか。「思い」や「考え」についても同様である。 □指導上の「手立て」についても記しておきたい。
	(3)「（電車の窓から見える青く透き通った空を）和也はどんな気持ちで見ていたでしょう。」（中心発問） ・正一君は本当にいい友達だ。 ・正一君のようないい友達がいて幸せだ。 ・もう正一君を疑ったりしない。 ・これからもっともっと正一君と仲良くなろう。 ・今日のことをたくさん手紙に書こう。	**・正一の和也に対する思いの深さに気付くとともに正一を疑ってしまい、後悔する気持ちからさらに友情を深めていこうとする和也の気持ちに共感させる。**
	④　してはいけない発問例。 **・「もしあなたが〇〇だったらどうしますか。」などの仮定の発問。〈無理になり切らせてはいけない〉**	□教材提示で十分自我関与していればこんな発問は不要。
	・「なぜ」「どうして」などの理由を聞く発問。〈読み取りや答え探しに流れやすい〉	□理由を本文から探し始める。読み取り、読解授業になる。
	●「話合い」活動（「**議論する**道徳」） **★話合いの基本：「聴き合い」の指導の徹底から。** **★教師の「待つ、聴く、受けとめる」姿勢が子供の発言を促す。** **★話合いを通して、物事を多面的・多角的に見る。** ①　ペアによる対話、グループによる議論（会話）。 ②　学級全体で話合う授業も立派な話合い活動である（教師のコーディネート力が求められる）。	□ペアやグループでの話合い活動を取り入れる場合、その期待する効果を述べる。 □話合い活動でどのような児童の学習状況を期待するのか。
	●　「動作化」や「役割演技」の活用（**体験的な学習**） **★動作化と役割演技を混同しないこと。**	□演技を行う前に必ずウォーミングアップを取り入れる。また、役割交代を行うこと。

展開の後段部分 （自己の生き方についての考えを深める。）	**動作化**：動きや言葉を模倣して理解を深める。 **役割演技**：特定の役割を与え即興的に演技することで、普段気付かない心情や心理を掘り起こす。	
	● 教材から離れて、主題に基づき自分自身を見つめさせる。発問➡発表や話合い、書く活動など。 ○ 友達との友情を深め、親友を大切にするには、友達に対するどんな気持ちや思いが大切でしょう。 ・親友の気持ちを理解し、相手を大切にしたい。 ・学び合って、助け合う。	・子供達一人一人がこれまでの自分を振り返り、親友について考えられるように支援する。 ・ワークシートに書く
終　末 教師の説話を聞く	● 教師がまとめるのではなく、子供達一人一人が各自の思いや考えをまとめることが大切。 ○ 教師の説話を聞く。 ・離れていても、相手のことを思い、お互いに頑張れる友達について話す。	□説話、家族からの手紙、スライドショー、ＧＴ　等。 ・余韻をもって終わる。

５　評　価　　※評価については、以下のように２つの視点から行うことが望ましい。

（１）指導の評価（教師の指導について評価し、次なる指導に活かす）

・授業方法や学習指導過程が適切かつ効果的であったかどうか評価する。（教材提示、発問、板書、話合い活動、説話　等）

（２）学習状況の評価（子供達の学習への取り組みの様子はどうか）

・本時のねらいに即して、子供達が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めている学習状況を具体的に把握し、評価する。

６　板書計画　　※板書計画の際に留意したい事項を以下に示す。

（１）目に見えない「心の在り様」を見える化する。　（２）学習指導過程と板書計画は一体のもの。

（３）子どもに分かりやすい板書を。　（４）学習活動に刺激を与える板書を。

（５）「心の多様性を際立たせる」板書を